

令和6年度 国際学部入学前指導 読書レポート課題図書一覧

宇都宮大学国際学部編『多文化共生をどう捉えるか』（下野新聞新書、2018）（本書は入学後、必修授業科目「新入生セミナー」で使用します。）

宇都宮大学国際学部編『世界を見るための38講』（下野新聞新書、2014）

<学問・教養>

上田紀之編著『新・大学でなにを学ぶか』（岩波ジュニア新書、2020）

内田樹編・岡田憲治他『転換期を生きるきみたちへ』（晶文社、2016）

隠岐さや香『文系と理系はなぜ分かれたのか』（星海社新書、2018）

清水真木『これが「教養」だ』（新潮新書、2010）

田巻松雄『未来を拓くあなたへ―「共に生きる社会」を考えるための10章』（下野新聞新書、2017）

村上陽一郎『あらためて教養とは』（新潮文庫、2004）

山口昌男『学問の春―知と遊びの10講義』（平凡社新書、2009）

吉野源三郎『君たちはどう生きるか』（岩波文庫、1982）

<言語・語学・翻訳>

庵功雄『やさしい日本語―多文化共生社会へ』（岩波新書、2016）

今井むつみ『ことばと思考』（岩波新書、2010）

大津由紀雄『英語学習 7つの誤解』（生活人新書 229、2007）

金田一春彦『日本語 新版』（上・下）（岩波新書、1988）

白井恭弘『外国語学習の科学―第二言語習得論とは何か』（岩波新書、2008）

白井恭弘『ことばの力学―応用言語学への招待―』（岩波新書、2013）

菅原克也『英語と日本語のあいだ』（講談社現代新書、2011）

鈴木孝夫『日本人はなぜ英語ができないか』（岩波新書、1999）

塩田勉『おじさん、語学する』（集英社新書、2001）

鳥飼久美子『国際共通語としての英語』（講談社現代新書、2011）

西村義樹・野矢茂樹『言語学の教室―哲学者と学ぶ認知言語学』（中公新書、2013）

町田健『言語世界地図』（新潮新書、2008）

丸山眞男・加藤周一『翻訳と日本の近代』（岩波新書、1998）

<哲学・思想>

イヴァン・イリイチ著、渡辺京二・渡辺梨佐訳『コンヴィヴィアリティのための道具』（ちくま学芸文庫、2015）

内田樹『寝ながら学べる構造主義』（文春新書、2002）

小松裕『田中正造―未来を紡ぐ思想人』（岩波書店、2013年）

<歴史・民族>

阿部謹也『「世間」とは何か』（講談社現代新書、1995）

E. H. カー著、清水幾太郎訳『歴史とは何か』（岩波新書、1962）

内堀基光、山下晋司『死の人類学』（講談社学術文庫、2006）

吉見俊哉『ポスト戦後社会―シリーズ日本近現代史〈9〉』（岩波新書、2009）

若林正丈『台湾―変容し躊躇するアイデンティティ』（ちくま新書、2001）

<芸術・美術>

高階秀爾『名画を見る眼』（岩波新書、1969）

高橋裕子『イギリス美術』（岩波新書、1989）

<政治・外交・経済>

- アマルティア・セン著、東郷えりか訳『人間の安全保障』（集英社新書、2006）
井出英策『18歳からの格差論：日本に本当に必要なもの』（東洋経済新報社、2016）
蓼沼宏一『幸せのための経済学：効率と衡平の考え方』（岩波ジュニア新書、2011）
高坂正堯『国際政治—恐怖と希望』（中公新書、1966）
西川潤『新・世界経済入門』（岩波新書、2014）
布施祐仁『経済的徴兵制』（集英社新書、2015）
ブライアン・アークハートほか著、光橋翠訳『世界平和への冒険旅行—ダグ・ハマーショルドと国連の未来』（新評論、2013）
水島治郎『ポピュリズムとは何か』（中公新書、2016）

<社会・文化>

- 青木保『「文化力」の時代—21世紀のアジアと日本』（岩波書店、2011）
アンドレア・センブリーニ著、三浦信孝・長谷川秀樹訳『多文化主義とは何か』（文庫クセジュ、2003）
伊藤元重・矢嶋孝敏『きもの文化と日本』（日経プレミアシリーズ、2016）
齋藤希史『漢文脈と近代日本—もう一つの言葉の世界』（日本放送出版会、2007）
田中克彦『ことばと国家』（岩波新書、1981）
堤未果『社会の真実の見つけ方』（岩波ジュニア新書、2011）
中根千絵『タテ社会の人間関係』（講談社現代新書、1967）
広井良典『コミュニティを問いなおす』（ちくま新書、2009）
ブレイディみかこ『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』（新潮社、2019）
好井裕明『「あたりまえ」を疑う社会学—質的調査のセンス』（光文社新書、2006）
好井裕明編『排除と差別の社会学』（有斐閣選書、2009）
山脇直司『社会とどうかかわるか—公共哲学からのヒント』（岩波ジュニア新書、2008）
渡辺靖『<文化>を捉え直す—カルチュラル・セキュリティの発想』（岩波新書、2015）

<教育・心理・コミュニケーション>

- 荻谷剛彦『学校って何だろう：教育の社会学入門』（ちくま文庫、2005）
菅野仁『友だち幻想—人と人の<つながり>を考える』（ちくまプリマー新書、2008）
小玉重夫『学力幻想』（ちくま新書、2013）
苦野一徳『「学校」をつくり直す』（河出新書、2019）
橋木俊詔『日本の教育格差』（岩波新書、2010）
本田由紀『教育は何を評価してきたのか』（岩波新書、2020）
山鳥重『「わかる」とはどういうことか—認識の脳科学』（ちくま新書、2002）
ダニエル・カーネマン著、村井章子訳『ファスト&スロー—あなたの意志はどのように決まるか？』（上・下）（ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2014）
名古屋隆彦『質問する、問い返す—主体的に学ぶということ』（岩波ジュニア新書、2017）
宮口幸治『ケーキの切れない非行少年たち』（新潮選書、2019）

<地球社会・国際協力>

- アマルティア・セン著、大石りら訳『貧困の克服』（集英社新書、2002）
ウルリッヒ・ベック『世界リスク社会論—テロ、戦争、自然破壊』（ちくま学芸文庫、2010）
池田香代子、C.ダグラス・ラミス『世界がもし100人の村だったら(お金編)』（マガジンハウス、2017）
伊勢崎賢治『国際貢献のウソ』（ちくまプリマー新書、2010）
阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編—貧困と紛争にどう向き合うか』（ミネルヴァ書房、2021）

重田康博・太田和宏・福島浩治・藤田和子編著『日本の国際協力 アジア編—経済成長から「持続可能な社会」の実現へ』（ミネルヴァ書房、2021）
重田康博・真崎克彦・阪本公美子編著『SDGs時代のグローバル開発協力論—開発援助・パートナーシップの再考』（明石書店、2021）
長有紀枝『入門 人間の安全保障—恐怖と欠乏からの自由を求めて』（中公新書、2012）
小松太郎『教育で平和をつくる—国際教育協力のしごと』（岩波ジュニア新書、2006）
西あい・湯本浩之編『グローバル時代の「開発」を考える—世界と関わり、共に生きるための7つのヒント』（明石書店、2017）
西川潤『データブック 食料』（岩波ブックレット No.737、岩波書店、2008）
西川潤『データブック 貧困』（岩波ブックレット No.730、岩波書店、2008）
西川潤『データブック 人口』（岩波ブックレット No.733、岩波書店、2008）
西村幹子ほか『SDGs時代の国際協力』（岩波ジュニア新書、2021）
墓田桂『難民問題』（中公新書、2016）

<科学・環境>

生源寺眞一他『農学が世界を救う—食料・生命・環境をめぐる科学の挑戦』（岩波ジュニア新書、2017）
高木仁三郎『市民科学者として生きる』（岩波新書、1999）
宇沢弘文『社会的共通資本』（岩波新書、2000）
斎藤幸平『人新世の「資本論」』（集英社新書、2020）
平川秀幸『科学は誰のものか—社会の側から問い直す』（NHK 出版生活人新書、2010）
福岡伸一『生物と無生物とのあいだ』（講談社現代新書、2007）
前野ウルド浩太郎『バッタを倒しにアフリカへ』（光文社新書、2017）
本川達雄『ゾウの時間ネズミの時間—サイズの生物学』（中公新書、1992）
本川達雄『生物多様性—「私」から考える進化・遺伝・生態系』（中公新書、2015）
吉田千亜『ルポ 母子避難—消されゆく原発事故被害者』（岩波新書、2016）
レイチェル・カーソン『沈黙の春』（新潮文庫、1974）

<アメリカ・中東・アフリカ>

池内恵『イスラーム国の衝撃』（文春文庫、2015）
石田洋子『アフリカに見捨てられる日本』（創成社、2008）
遠藤貢ほか編『東大塾 社会人のための現代アフリカ講義』（東京大学出版会、2017）
大治朋子『勝てないアメリカ—「対テロ戦争」の日常』（岩波新書、2012）
酒井啓子『<中東>の考え方』（講談社現代新書、2010）
児玉実英『アメリカのジャポニズム』（中公新書、1995）

<ジェンダー>

上野千鶴子『女ぎらい—日本のミソジニー』（朝日文庫、2018）
い・ミンギョン著、すんみ・小山内園子訳『私たちにはことばが必要だ—フェミニストは黙らない』（タバブックス、2018）
スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ『戦争は女の顔をしていない』（岩波現代文庫、2016）
前田健太郎『女性のいない民主主義』（岩波新書、2019）
ケイト・マン著・小川芳範訳『ひれふせ、女たち—ミソジニーの論理』（慶応義塾大学出版会、2019）
治部れんげ『男女格差後進国の衝撃—無意識のジェンダー・バイアスを克服する』小学館新書、2020）
太田啓子『これからの男の子たちへ—「男らしさ」から自由になるためのレッスン』（大月書店、2020）

<文学>

アルベール・カミュ著、宮崎嶺雄訳『ペスト』（新潮文庫、1969）
村田沙耶香『コンビニ人間』（文春文庫、2016）

柳美里『J R上野駅公園口』（河出文庫、2017）

チョ・ナムジュ著、斎藤真理子訳『82年生生まれ、キム・ジョン』（筑摩書房、2018）

ジェイ・ルービン編 村上春樹序『ペンギン・ブックスが選んだ日本の名短編 29』（新潮社、2019）

<SDGs>

阿部治・野田恵編著『知る・わかる・伝える SDGs〔I〕 貧困・食料・健康・ジェンダー・水と衛生』（学文社、2019）

蟹江憲史『SDGs（持続可能な開発目標）』（中公新書、2020）

高柳彰夫・大橋正明編『SDGsを学ぶ：国際開発・国際協力入門』（法律文化社、2018）

南博・稲葉雅紀『SDGs—危機の時代の羅針盤』（岩波新書、2020）